

民生環境水道常任委員会行政視察報告書

大 島 綾

○静岡県藤枝市

健康マイレージをはじめとした『“健康・予防 日本一” ふじえだプロジェクト』の取り組みについて

【所 見】

藤枝市は、平成25年、厚生労働省の主催する『第1回健康寿命をのぼそう！アワード』の自治体部門で厚生労働省健康局長優良賞を受賞された。これを機に受賞自治体で先進事例研究をするため、『健康寿命延伸都市協議会』を発足されたそうである。

そもそも、藤枝市の重点戦略に掲げられている「暮らしの基本・4K政策」の健康・教育・環境・危機管理のうち、トップに掲げられているのが健康であり、市民が幸せな健康生活を少しでも長く続けられるまちを目指してこられたとのことである。

藤枝市で行われている健康に関する特色としては、市の組織の中に健康推進課と健康企画課を設け、健康推進課では「守る健康（命を守る）」を、そして健康企画課では「創る健康（命を輝かせる）」を推進していることであった。

健康推進課で推進をしている「守る健康」では、市民・事業者と行政が一体となった取り組みを長年とり行ってきた。特に、地域から1,000人にも上る保健委員を募り、健康を守る活動を50年の長きにわたり続けているとのこと、この保健委員は自治会組織を基盤に市民の2万人が経験をされているということで、一人一人が保健委員を経験することで、健康に対する意識の向上が図られていることがうかがわれた。その結果、特定健康診査の受診率は県内の人口10万人以上の市の部で第1位、またメタボ率も全国2位の少なさ、さらにがん検診受診率も全国の中でも高い水準を保っているそうである。

中でも、足利市においてもぜひ取り組んで頂きたいと思ったことは、特定健康診査の受診票を各自治会単位で配布をしていることであった。こうすることにより、御近所や仲間同士で気軽に声を掛け合い、健康診査を受けるという市民の意識の向上につながるのではないかと。そして、高齢化社会において病気を早期に発見し治療をすることにより、元気に長生きをするという意識の確立をすることが大切だと思った。

また、健康企画課が推進をしている「創る健康」についても、健康に関する施

策について企画課を設け市民の健康の増進を図っていることがすばらしく、その中で「健康マイレージ」などをとり行っているとのことで、本市においても健康に関する企画を中心に推進する部署を設けることが、今後の市民の健康推進に必要ではないかと考えた。

○東京都国分寺市

国分寺市プレイステーションについて

【所見】

国分寺市プレイステーションに伺いまず驚いたことは、東京の閑静な住宅街の中に、土や木の香りのする自然と親しめる広い遊び場があることであった。このプレイステーションはプレイリーダーが見守る中、子供が泥だらけになって遊べる場所で、現代においては田舎でも子供が外で遊ぶという光景をなかなか目にしなくなっている中、貴重な子供の遊び場であることがうかがえた。

視察に伺ったときも、子供たちが泥だらけになって遊ぶ姿が見られたが、こうした環境の中で子供は自然のことや、どうしたら危なくないのかなど、さまざまなことを学んでいくのだろうと感じた。屋外の自然の中で遊ぶということは、危険がつきものと考えがちであるが、不思議と大きなけがはないという説明に、やはり子供たちは身をもって体験し、危険の回避を身につけていくものなんだと、改めて学ばせていただいた。

運営において、一つ、御近所との関係が課題という話があり、子供が遊ぶ声や泣き声へのクレームについて、以前、保育所や幼稚園の建設に反対を唱える方々がいるという報道を思い出した。未来を担う大切な子供たちの育成には、地域ぐるみで関わっていくことが必要なのではないかと考えさせられた。

本市にある「キッズピアあしかが」も好評を博しているが、自然に恵まれた地の利を生かした屋外の遊び場があってもよいのか、今後の課題としていきたいと考える。